

◆実践校名 島本町立第二小学校、吹田市立吹田第一小学校、茨木市立水尾小学校

◆主題名 信頼 道徳の内容 B - 友情・信頼

◆ねらい 自分が何気なく送ったメールにより、友達について根も葉もない噂を広めてしまった主人公を通して、互いに信頼し、学び合って友情を深めようとする道徳的判断力を高める。

◎中心的な発問

みかさんの頭の中は、どんなことでいっぱいだったのでしょうか。

◆本時の展開

	学習活動	発問と予想される子どもの反応	指導上の留意点及び評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> 資料についての理解を深め、学習意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 携帯の所有率についてのグラフを見て、感じたことを交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○携帯端末所有率グラフを提示。 ○時間をかけない。
展開	<ul style="list-style-type: none"> 範読を聞く。 資料の内容と確認する。 あゆみの自己紹介を聞いたみか的心情を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どんなことが起こりましたか。 ・登場人物：あゆみ みか クラスの友達 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>あゆみさんの自己紹介を聞いたとき、みかさんはどんなことを考えたでしょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・趣味が一緒でうれしい。 ・仲良くなれそう。 ・早くお喋りしてみたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料を範読する。 ○登場人物の状況や気持ちの変化を捉え、場面把握させる。 ○あゆみと仲良くなりたいという、みかの気持ちに共感させる。
	<ul style="list-style-type: none"> メモ用紙をポケットにつっこんだみか的心情を考える。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>みかさんは、どんなことを考えながら、メモ用紙を小さく丸めてポケットにつっこんだでしょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・友達になれないかも…。 ・携帯電話を持っていないなんて残念。 ・せっかく漫画の話ができると思ったのに…。 ・家に電話をかけるなんて面倒。 ・なんで携帯電話を持ってないの。 	<ul style="list-style-type: none"> ○みかの思いを捉えることで、メールが一人歩きして誤解を生んでしまったこととのズレをおさえる。 ○みかを批判的に捉えるのではなく、様々な角度からの意見を引き出すことにより、主題への足がかりとしていく。

	<ul style="list-style-type: none"> ・思い込みによってあゆみを傷つけてしまったみかの心情を考える。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>みかさんの頭の中は、どんなことでいっぱいだったのでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・私のメールでこんなことになってしまうなんて。 ・すぐに謝らないと。 ・あゆみさんに申し訳ないことをした。 ・適当なことをメールで送ってはいけない。 ・あゆみさんのために何とかしないと。 ・最初に送った内容と変わってしまっている。 ・あゆみさんのことを考えていなかった。 ・みんなにもちゃんと言わないと。 ・次から気を付けないといけない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○みかの思いを考えるために書く活動を取り入れ、時間保証する。二人の関係がこれからどうなっていくかも考えさせる。 ○児童からの短い発言は問い返しの発問で深める。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><評価> 友達との関わり方について、自分の生活をふり返りながら考えている。 (評価方法) ノート(ワークシート)への書き込み発表、話し合い(班活動含む)の様子 <評価をいかした支援> 友達の意見を聞いて、自分の考えを深められるようにする。</p> </div>
終 末	<ul style="list-style-type: none"> ・感想を書く。 ・感想を話し合う。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>今日の学習のふり返りを書きましょう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の生活をふり返り、自己と向き合う時間とする。 ○ねらいとする価値を温める。

◆研究のまとめ

○授業実践について、チームとしてのまとめ

<成果>

中心発問を、「みかさんの頭の中はどんなことでいっぱいになったのでしょうか。」とすることで、「いっぱい」について焦点をあて、子ども自身が考えることにより、多様な考えが出るきっかけとなった。

また、自分一人では一つ二つの考えしか出なかった子どもでも、友達の考えを聞くという活動を行うことで、「あー、わかる。わかる。」「なるほど。そんな考えもあるのか。」と共感したり、考えに納得したりする姿も見られた。多様な考えを許させる発問だったからこそ自分一人では思いつきもしない考えが出てくることになり、「友達の考えを聞くのが楽しい。」と思う子ども達も多くいた。

まとめ

○多様な考えが出せる発問を設定することが授業において大切

○多様な考えが許される場（安心して意見が言い合える関係性）が不可欠

<改善>

読み物資料が「メールのトラブル」だったということで、子ども達にとって身近なテーマであった分、「携帯トラブル」や「メール=怖い」、「どのようにメールすることが大切か」と子ども達が情報モラルの観点で考えてしまっているところがあった。内容を読み進める上で、“携帯”や“メール”を強調しすぎず、「自分の発言や行動によって、相手がどのような気持ちになるのか」ということについて考えられるよう教師は意識しておく必要がある。

また、「みか」や「あゆみ」という自分とは全く関係のない第三者の気持ちや考えを出し合ったからこそ、自由で多様な考えが出せたと考える。「自分ならどう考えるか」という発問にすると、建前的な考えに終始する可能性がある。6年生という思春期に差し掛かる発達段階に合わせてどのような発問にするかを考えることも必要不可欠であると考えます。

○道徳の評価についての提言

<何を評価するのか>

多様な価値に触れ、交流することで自分の考えを深めることができたか

ねらいとする価値、主題にそった意見を評価しようとする、価値の高さが評価の対象となり、「道徳の時間」に限定された建前論に終始してしまったり、指導者の求める価値にそった発言をしようと「良い子主義」に陥ってしまったりする危険性がある。

そこで、大切にしたいことは、個人内の変化、成長、深まりであり、個人内の考えに深まりを持たせることができるのは、多様な価値（人や意見）との出会いだということである。

<評価する場>

葛藤が出し合えたり、自分の意見を自由に言えたりする場を設定することが大切

望ましい価値ではないことがわかっている、感情、周囲との関係性、場面状況などによって、ままならないことも多々ある。それは、子どもも大人も同じであり、教師と子どもたちが一緒になって考える場面を設定することで、本音の部分が出し合えたり、一人ひとりが「自分事」として捉えることの中で素直な考えを出し合えたりできると考える。

<評価の方法>

授業内で使う「ワークシート」道徳の授業以外でも活用できる「ミニノート」などを使う

いずれの場合も、形式は単純化し、一年を通して継続的に活用できるようにする。「自分の考えを深めることができたか」「友だちの意見をよく聞いたか」などと簡単に継続できる自己評価を取り入れることで、指導者も子ども自身も振り返りが可能になる。

継続使用することで同じ内容項目を扱ったときの子どもの反応の変化を見取ることができる。「ミニノート」を活用すれば、「道徳の時間」に学習したことが実践場面に生かされていたり、生活の中で課題があることを表現している子どもが授業を通して考えを変化させたり深めたりしている部分を見いだしたりすることができる可能性もある。

★ワークシート★

「道徳の時間」の授業にそった評価を見ることができる。

形式を、一年を通して統一し、時系列に保管することで、個人内の変化や深まりを見取ることが可能になる

★ミニノート★

「道徳の時間」に限らず、日常生活や、他教科での振り返りにも活用でき、学校生活全体の中で子ども自身の変化や成長を時系列で見取ることができる。

文章評価する際のエピソードも得られる。

【各校での実践の記録】

◆実施学年（6年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○ 評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

<子どもの意見から>

- ・ 「あゆみさんに悪い」「傷つけてしまって後悔している」「自分のせいで」といった反省・後悔、「謝らなければ」という謝罪の気持ちをもつ子どもが多かった。
- ・ 「あゆみは何も悪くない」「今頃どうしているだろう」「明日ちゃんと学校に来るかな？」という、あゆみを心配している気持ちを持つ子どもが多かった。
- ・ 自分が「嘘」をついてしまったことへの反省・後悔も多かった。
- ・ 「自分は想像したことを書いただけ」「悪気はなかった」と、自分の思いに反してメールがあゆみを傷つける結果になってしまったことに、戸惑いや、不安。
- ・ 自分がメルアドを貰えず、がっかりした気持ちを持っていたから、つい、それがやり場のない怒りのようなものになり、あゆみさんを傷つけるようなメールになってしまった、という感情のすれ違いなどから、言葉の使い方が違ってくことに気づいている発言があり、「そんなつもりはない」と言いつつも、原因が自分にあることも大いにあることに気づいた。
- ・ 「友だちになりたい」と思っていただけだったのに、どうしてこんなことになったのかという焦りや不安を持ち、自分が嫌われる、批判される立場になるのでは（メールの発信源が自分だと、ばれたらどうしよう）という恐れを感じている子どももいた。
- ・ 「自分の書いたことと違う！」「なぜそんなことになったの？」という驚き、や自分のせいじゃない・・・、そもそもそんなねじ曲げてメールしたのは誰だ？と怒っている、という、自分の責任ではないと逃げたいと思う本音を出す子どももいて、発表した際には、そんな考えだけじゃ駄目なのでは？と思いつつも、心情としては「わかる、わかる・・・」と言った反応も多かった。
- ・ 「あゆみさんになんて言えばいいだろう？」「本当は友達になりたかった、気が合うと思うし」と今後の行動をどうするか考えている意見は少数だった。
- ・ これが先生や親に伝わったら、とか、ばれたら「怒られる」というやや幼い意見もあった。多様な考えが出て、意見交流の際には、自分が思いつかなかった意見について、「すごいな」とか、「その考え方は素敵だと思う」という話げができた。交流後に、自分の考えが変わったか、もしくはどんな理由で変わらなかったか、などを考える時間をとることが出来れば、さらに考えを深められたのではないか。

<感想、まとめから>

- ・ 続きが気になる、この後、二人が仲良くなってきていると思う！と期待する思いなど、この後の電話でいったいどんな展開が待っているのだろうかということに関心を持つ子どもが多かった。それは、おそらく、葛藤を自分なりに捉えて考える中で「このままでは嫌だな」「嫌なことがあっても、それを乗り越えて仲良くなってほしい」という、子どもたちの友だちとつながりたい！仲良くなりたいたいという素直な願望の現れと感じた。
- ・ 「友だちの少ない（と思う）あゆみさんと仲良しだと周りに思われたら、自分も変な人と思われるかも」という、対本人ではなく、「周囲の目」を気にして判断しようとするこの時期の子どもに現れやすい考え方も出てきた。普段の生活の中では見えにくく、具体的な場面では表出しにくいような正直な気持ちや、読み物のストーリー・登場人物を通して、出てくるところが読み物教材の良さだと改めて感じる部分だった。
- ・ 「やはりメールって怖いな」「こんなことにもなるのだったら、携帯はいらないかも」といった情報モラル面の感想で終わる子もいた。携帯のメール以外でも様々な場面で相手のことを考え行動していくことが大切だとつなげていけるような展開ができればいいと思った。

○成果と課題

- ・ 中心発問「みかさんの頭の中はどんなことでいっぱいになったのでしょうか」は、子どもたちの多様な考えを引き出すのにとっても良かったと思う。
- ・ 多様な考えがあるからこそ、交流の場面がとても楽しく有意義な時間となり、どの子ども友だちの意見を聞きたい！という姿勢で参加していた。
- ・ 自分の意見を出すことに控えめな児童も、班での交流時間を少しもったことで、全員が自分の意見を聞いてもらう時間が持てた。また、全体交流の場で、班で聞いた素敵な意見や、ぜひみんなに知ってほしい貴重な意見などを紹介してもらう場を設定したところ、さらに多様な意見が出てきた。
- ・ 身近なテーマであり、かつ、ちょっと距離感のある読み物教材なのでどの子ども「自分事」として捉えやすく、しっかり考えていた。
- ・ メールはこわいといった、「携帯・メール」にとらわれすぎないように、二人の関係性やメールに限らず、相手に対する発言や行動について考えられるような展開を意識する必要がある。

所属（島本町立第二小学校）

◆実施学年（6年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

○中心発問の場面の発言の様子と内容から

- ・「こんなことしなければよかった」「謝らなければ」というように、みかの取った行動に対して、後悔していると考ええる児童が多く、だからこそ自分はどのような行動をしたらいいのか、という「お互いを信頼して学び合う」段階まで考えられた児童は少なかった。そこで、全体で意見を交流すると共に、友達の見解を聞いた上でもう一度問い直し、自分はどう思うかなどの交流をしていった。後悔すると共に、「広めた人も良くない。」「自分にそのつもりはなくても、相手の気持ちを考えなければ、いじわるになってしまうこともある。」というように考えを深め、自分自身はどのような行動を取るべきなのかということも考えていくことができた。

○授業の感想より

- ・ふり返りでは、「今日の学習で自分の考えを持つことができたか」の問いに対しては、「よくできた」が16人、「できた」が8人であり、「今日の学習で友達のことを心でしっかりと考えることができたか」の問いに対しては、「よくできた」が18人、「できた」は6人であった。いずれの問いに対しても、「できなかった」は誰もいなかった。このことから、自分の考えを持った上で友達の見解を聞き、さらに考えを深めていくことができた児童も多かったと思われる。また、自分専用の携帯電話を持っていて、メールを実際に送る機会がある児童は、自分自身の経験も踏まえた上で、「私も気を付けなければならない」と、自分のこととして考えている児童も少なくはなかった。

○成果と課題

テーマが子ども達にも身近なことであったため、子ども達には考えやすいテーマだったように考えられる。また、お互いの意見を聞き合うことで考えを深めることはできたと考えている。ただ、あくまで「携帯のメール」という枠で考えてしまい、それ以外のことに対しても相手のことを考えて行動していくことが必要である、というところまではできなかったように思われる。また、自分自身が気を付けなければいけないという意識はできているが、実際の場面で本当にそのような行動を取ることができるかという疑問が残る。「道徳的判断力」を身につけた上で、どのように「道徳的実践力」につなげていくかを考えていかなければいけないと感じた。

◆評価に用いた資料サンプル（子どものワークシートなど）

○みかさんの頭の中は、どんなことでいっぱいだったのでしょうか。

- ・私の思い込みがこんなに広がってしまうなんて…。
- ・私は推測だって書いたのに、みんな勝手な勘違いをしている。どうしよう。
- ・何でこんなことになってしまったんやろう。
- ・こんなことをしなければよかった。
- ・こんなことになるなら、初めから書かなければ良かった。
- ・やばい。
- ・くやしい。
- ・こんなことになって悲しい。
- ・どうしよう。あゆみさんに悪いことをした。

- ・あゆみさんを傷つけてしまった。
- ・あゆみさんを傷つけるつもりはなかったんだけどな…。
- ・書いたことはいじわるになってしまうやな。
- ・あゆみさん、どんな気持ちになっているやろう。
- ・あゆみさん、明日どうなるやろう？
- ・あゆみさんのことが心配。
- ・仲良くなれるかもしれないのに…。
- ・まだ一緒に遊びたいのに。
- ・一緒に漫画を描くことができるかな。
- ・あゆみさんに無視されたらどうしよう。
- ・あゆみさんと元の関係に戻りたい。
- ・早くあゆみさんに謝らないと！
- ・ちゃんと謝ろう。
- ・昨日もらった電話番号にかけて謝ろう。
- ・ごめんなさい。わざとじゃないの。
- ・なんでメールの文章が変わってしまったのかな。
- ・誰が文章勝手にかえたん？むかつくわ。
- ・私も悪いけど、広めた人も悪い。
- ・謝ろうかな。謝らないでおこうかな。
- ・私は悪くない。
- ・友達が全員携帯電話を持っているのに、あゆみさんは持っていないから、あゆみさんと一緒に遊んでいたら私が仲間外れにされるかも。

授業後の子ども達より

1 今日の学習で、自分の考えを持つことができましたか。

よくできた : 16人
 できた : 8人
 できなかった : 0人
 (合計24人)

2 今日の学習で、友達のことを心でしっかりと考えることができましたか。

よくできた : 18人
 できた : 6人
 できなかった : 0人
 (合計24人)

3 授業の感想

- ・みかさんのちょっとした思い込みでクラスみんなに間違っただけ情報が流れてしまって、あゆみさんがかわいそうだった。
- ・勝手に推測したらいけない。しても、みんなに言ったらあかん。
- ・ぼくが、もしみかさんの立場だったら相手は傷ついていると思うから、しっかり相手の気持ちを考えないといけない。
- ・私は家族としかメールをしていないけど、将来友達とやりとりするかもしれないから、気を付けてメールしないといけないなあと思った。
- ・今、「LINE」とかでトラブルやいじめなどが起こっているけど、メールの勘違いなどでトラブルが起きているんだなあっとわかった。これからはそういうトラブルが起こらないように気を付けていこうと思った。

- ・携帯のメールを使って悪いことを流すのはやめたほうがいいと思った。
- ・私が携帯電話を持っているから、そんなことしないようにと思った。差別みたいなことはよそうと思った。
- ・携帯がないだけでこんなことになると思ってなかった。これから気を付けよう。
- ・携帯ぐらいなくてもいいとぼくは思う。
- ・あゆみさんもかわいそうだけど、みかさんも、自分が書いてないのにみかさんが書いたことみたいにされていたので、かわいそうだと思った。
- ・友達が勝手に文を変えるのはよくないと思った。
- ・この後、みかさんは謝ったと思う。
- ・しっかりと自分で考えることができてよかった。

◆参考資料

ワークシート

「知らない間の出来事」

6年 組 ()

☆みかさんの頭の中は、どんなことでいっぱいだったのでしょうか。



1 今日の学習で、自分の考えを持つことができましたか。



2 今日の学習で、友達の考えを心でしっかりきくことができましたか。



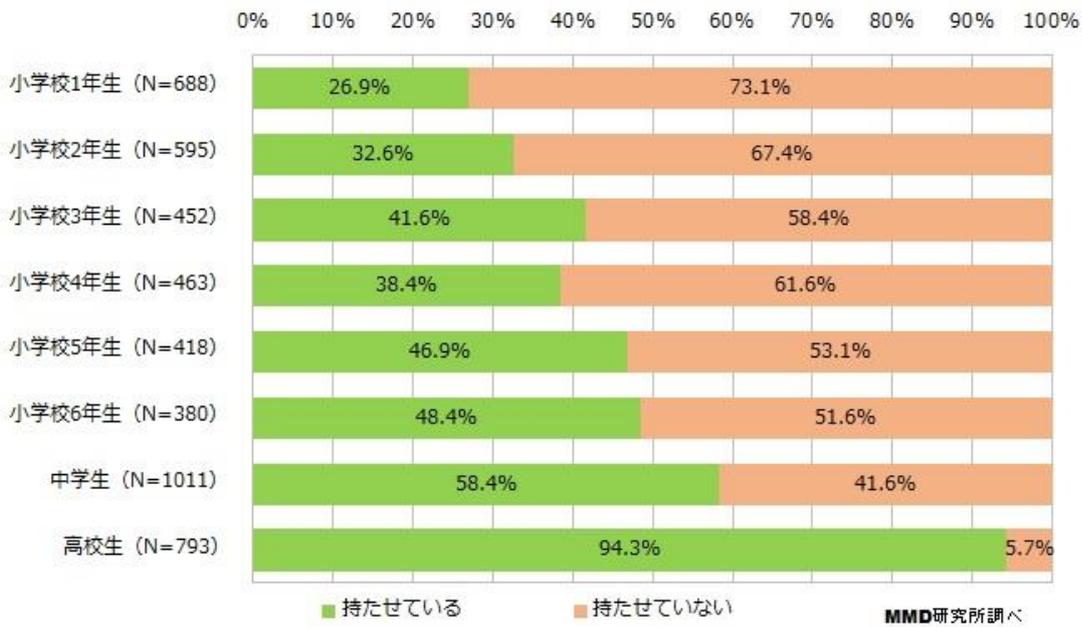
3 今日の学習の感想を書きましょう。

揭示資料

(資料1)

MMD 研究所「2014 年子供を持つ母親の携帯電話・スマートフォンに関する意識調査」より

- 子供（小学生～高校生）の携帯電話端末所有率



調査：2014年7月31日～8月2日・対象者：子供を持つ20歳～49歳の女性。有効回答は1万1000人

(資料2)



(資料3)



◆実施学年（6年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

- ・中心発問の場面で、「私、悪人あつかいされそう」という記述もあったので、主題である信頼という点で友人（あゆみさん）への視点が必要であると考えた。そこで、指導者から今後の2人の関係はどうなっていくかについても考えさせることで、友情を深めようとする判断力につなげようとした。
- ・心情について考える際に、「自分と同じ趣味だと思った。」「がっかりした気持ち」等、客観的に書きすぎる子どもに対しては、めあてに立ち返り、「みかさんになりきって」考えるように声をかけることで、「あんなメール送らなければ良かった。」というように登場人物の言葉で書けるようになった。
- ・みかさんがした行動に批判的な流れになりそうになったときは、様々な角度からとらえ、主題への足がかりとした。
- ・振り返りの場面で、「携帯電話に関する学習をしました。」という記述から、友情よりも情報教育のモラルの方の印象も与えてしまったので、ねらいに立ち返るよう声かけをした。

◆評価に用いた資料サンプル（子どものワークシートなど）

○成果と課題

- ・子どもから様々な意見をひきだすことができた。
- ・情報モラルの印象が強くなりすぎないように注意を払う必要がある。

所属（ 茨木市立水尾小学校 ）

◆評価に用いた資料サンプル（子どものワークシートなど）

*ねらいを達成したと思われる表記に赤の下線を入れている

ワークシート

6年生 道徳「知らない間の出来事」 ワークシート

学習した日 10月8日 6年 組名前(川 裕助)

□あゆみさんの自己紹介を聞いたとき、「みか」さんはどんなことを考えましたでしょうか。

あゆみ みか
みかが同じだからいっしょに遊ぼう。まんががいっぱいあつていいな。

□「みか」さんは、どんなことを考えながら、メモ用紙を小さく丸めてポケットにつこんだのでしょうか。

なんやけいたい電話持てないか。まんがの話をけいいて電話でアツリてほしい。

□「みか」さんの頭の中は、どんなことでいっぱいだったのでしょうか。

あゆみさんと友だちになれないかな。あの時、メールしなければよかった。あやまったらゆるしてくれるかな。

□今日の学習を終えて、思ったことや考えたことをまとめよう。

ほくは前までけいたいかほしかたけいいていってこんなことになりましたのでけいいていを使うときは気を付けています。人の気持ちのことも学習したので人の気持ちも考えたいです。

ワークシート

6年生 道徳「知らない間の出来事」 ワークシート

学習した日 10月8日 6年 名前(長谷 京香)

□あゆみさんの自己紹介を聞いたとき、「みか」さんはどんなことを考えましたでしょうか。

あゆみ みか
趣味がいっしょに仲良くなれそう。友達になって漫画をかいて遊みたい。漫画の話したいな。

□「みか」さんは、どんなことを考えながら、メモ用紙を小さく丸めてポケットにつこんだのでしょうか。

携帯持てないなら、これじゃ連絡できない。漫画の話とかメールでかいた方がいい。あゆみさん、何で持てないの？前々学校で聞いたことあるよ。

□「みか」さんの頭の中は、どんなことでいっぱいだったのでしょうか。

あゆみさんに悪いことをしました。あんなメール送るんじゃないか。あゆみさん、ひどいと言われたい傷ついたらどうかな。今すぐあやまらなきゃ。謝りたくな。あやまらなきゃ。私のせいじゃなく仲間外れなってるよ。

□今日の学習を終えて、思ったことや考えたことをまとめよう。

携帯電話に関する学習をしました。私は携帯電話を持っていないけど、これから買ったら傷ついたら悪口を言ったり人がいやな気持ちになるメールや電話は絶対してはいけないと思いました。携帯を持てる持てないに関係なくみんなが楽しく過ごせる接し方を考えていきたいです。

ワークシート

6年生 道徳「知らない間の出来事」 ワークシート

学習した日 10月8日 6年 名前(赤木 理恵)

□あゆみさんの自己紹介を聞いたとき、「みか」さんはどんなことを考えましたでしょうか。

あゆみ みか
私の趣味と全く同じで最近漫画の夢中になっていて、びっくりした。趣味があるから友達になりたいてい、いっしょに漫画を勉強したい。

□「みか」さんは、どんなことを考えながら、メモ用紙を小さく丸めてポケットにつこんだのでしょうか。

せいか、趣味も同じやの区、持てないことは、まあ、学校で友達がいっぱいから勉強したのかな？

□「みか」さんの頭の中は、どんなことでいっぱいだったのでしょうか。

私もメールで送ったことか、いっしょに……私の思いがけないで、あゆみさん……私のせいで、電話してちゃんと謝ろう。

□今日の学習を終えて、思ったことや考えたことをまとめよう。

人の気持ちや心の声を考える。私も勉強したことか2回あつて友達かEさんでEさんで、これからあゆみさんも楽しんでやっていると、あゆみさんの気持ちの心が開いた。あゆみさんです。

6年生 道徳「知らない間の出来事」 ワークシート

学習した日 月 日

6年 名前()

□あゆみさんの自己紹介を聞いたとき、「みか」さんはどんなことを考えたでしょうか。



Thought bubble with four horizontal dashed lines for writing.

□「みか」さんは、どんなことを考えながら、メモ用紙を小さく丸めてポケットにつこんだのでしょうか。



Thought bubble with four horizontal dashed lines for writing.

□「みか」さんの頭の中は、どんなことでいっぱいだったのでしょうか。



Large rounded rectangular box with four horizontal dashed lines for writing.

□今日の学習を終えて、思ったことや考えたことをまとめよう。

Large rounded rectangular box with six horizontal dashed lines for writing.

○板書計画



○板書写真



所属(茨木市立水尾小学校)